



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小島 隆也
東京都文京区林友ビル6階
〒112-0004 (3818) 2906
電話 03 (3818) 2906
FAX 03 (3818) 2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

開催 全市連第64回定期総会を

当連盟は5月20日(月)、第64回定期総会を東京・江東区のホテルイースト21で開催した。会員の出席は、代理、委任状を含めて108名。来賓として林野庁本郷浩二次長、眞城英一木材産業課長、関口高士業務課長、同田口護企画官、同宇山企画官、全木連森田常務、農林漁業信用基金池田直弥総括理事、日本木材総合情報センター松本有幸理事長、ほか多くの方々にご出席頂いた。大会では、全市連会長功労者表彰状の贈呈のほか30年度の事業報告、同決算が決議された。また、役員候補等を行い、大会宣言を採択した。

開会宣言・開会の挨拶

吉岡副会長(関東北支部長 千葉県木材市場(協))は昨年総会以降の会員関係物故者への黙祷の後、「林業、木材産業の課題解決に向け、全市連として、全力あげて取り組もう」と開会宣言した。

西垣泰幸会長は挨拶で、「表彰を受けられる方々へのお祝い。年明け足踏み感の景気回復、労働力不足・働き方改革等への対応。2019年度住宅着工戸数90万戸台前半との予測の中、米中通商問題、

中国経済足踏み、為替の動向、日欧EPAやTPP11の発効、英国EU離脱、消費税引き上げ、C/W法の影響など、先を見通す上で、不透明な要素が益々増加し、激動の時代の様相。林業の成長産業化実現のため、2019年度から森林経営管理制度の運用及び森林環境譲与税配分が始まる。国の施策でも、①木材産業の競争力の強化対策として、製材工場等の大規模化に伴う木材生産者・製材工場・工務店等の連携強化②木材流通全体の効率化対策として川上・川下までの事業者の連携によるサプライチェーン構築③非住宅分野における木材利用の拡大④新たな木材製品・技術の開発・普及等の取り組みがなされている。木材市場も、集荷、仕訳、価格形成、与信、情報発信及びコーディネート等、従来から構築してきた木材市場機能の高度発揮により、国産材の安定供給及び山元への利益を還元できる体制整備を通じ、林業の成長産業化に貢献して行く。「(一社)国産材を活用し日本産材を守る運動推進協議会」活動並びに「木材アドバイザー講習会」等を通じて、林業・木材業界、大工・工務店、更には建築士等とも手を携えて、木材利用の拡大、木造建築物の建設促進・木質化などに取り組んで行く。」等と述べた。

全市連会長功労者表彰

今回の、全市連功労者表彰者(全市連時報令和元年5月号No.733号に掲載)のうち、14名の出席者に対して、表彰状及び副賞の贈呈が行われた。



会長表彰受賞者



西垣会長挨拶



吉岡副会長開会挨拶

来賓祝辞

本郷浩二林野庁次長から「総会開催への祝意、表彰受賞者に敬意。令和の時代も、連盟の更なる発展を祈願。先人がつくった資源を上手に使い、持続可能な次世代に繋ぐことが大きな課題。伐って、使って、植える」循環をつくっていく必要。国産材の需要拡大を困らないと、資源が、宝の持ち腐れに。需要拡大への取組を願いたい。併せて安定供給体制の構築が重要。山元にお金が還元されるよう、ご支援・ご協力をお願いする。近年、森林所有者に無断で伐採する事案も出て、大きな問題。伐採跡地の再造林も大きな課題。SDGsの言葉もあるが、持続性が非常に重要、合法でない木材を流通させないという取組もお願いしたい。このような施策により、林業成長産業化、木材産業の発展に取り組んで行く。」等の御挨拶を頂いた。



本郷林野庁次長挨拶

・森田一行(一社)全国木材組合連合会常務からは、「全木連に対する日頃の御理解と御協力に感謝並びに表彰を受けられた方々へのお祝い。この度発足した「森林を活かし都市の木造化を推進する議員連盟」と民間の「森林を活かし都市の木

造化を推進する協議会」が緊密に連携して国産材利用を拡大し、日本の森林再生を図って行きたい。今年度から市町村等に配布される森林環境譲与税については、住民ニーズ・意向に沿った使い道是非とも市町村に工夫して頂きたい。現在、木材価格は極めて低水準だが、林業・木材産業が再生産でき生き残れる持続可能となる木材価格を実現していきたい。無断伐採対策及び合法木材の供給を事業者自らの責任として一層力を入れ取り組んで行く。」等の挨拶があった。



森田全木連常務挨拶

**【議事】**

議事は、石井保治副会長・東海支部長（株）東海木材相互市場）を議長選任して、進行した。

**第1号議案** 30年度事業報告及び決算承認の件

平成30年度は、関係団体と緊密に連携しながら、木の良さのPRや木材利用推進、「森林・林業の再生に向けた共同行動宣言2018」等に加わった。人材育成、CW法への対応、木造住宅や公共施設等への木材利用拡大に取り組むとともに、関係団体と共同で、地域の会員の御

支援・御協力を得て「需給情報共有化対策事業」（国の委託事業）への取り組み等を行った。

30年度決算は、経常収益計2,671万9千円余、経常費用計2,754万7千円余となり、当期経常増減額は、82万7千円余のマイナスとなった。

定款第22条の規定に基づき、菊地實監事より、決算等の内容は適正であるとの監査報告を行い承認された。

**第2号議案** 令和元年度事業計画及び収支予算の報告の件

事業計画及び収支予算は、3月の理事会で決議済みであり、その概要（森林環境税の活用、都市木造化への取組、SCMフォーラム等への積極参加、行政・議会への働き掛け、労働災害未然防止、連盟運営への会員意向の反映、連盟加盟促進等）を報告すると共に令和元年度会費割り当てを説明し、承認された。

**第3号議案** 役員改選の件

代表者交代等に伴う理事等の補選が提案され、総会に先立つ理事会における、関東北支部長の交代承認及び副会長の選任が報告され、承認された。

（近畿支部）久我四郎理事から久我洋一理事（株）関西木材市場）に、名村正治理事から名田健吾理事（神戸木材市

売（協）に、丸谷隆久理事から上平守男理事（吉野木材（協連）に、（九州支部）五十嵐可久理事から外山正志理事（都城地区製材事業（協）に交代。

副会長・関東北支部長が吉岡實（千葉県木材市場（協）から佐藤政俊（有）福島原木センター）に交代する結果となった。

**第4号議案** その他

次期総会の開催地は九州（熊本県）で検討すること（正式決定は九市連総会決議後で）を提案し、承認された。

**【大会決議】**

守屋長光東北支部長（株）仙台木材市場）より「①大震災及び台風等の被害からの復興に向けた地域材の利用拡大、②市場機能の高度発揮による林業の成長産業化への貢献、③合法証明・木質バイオ証明の信頼性の維持・向上、④都市部での木材利用拡大、⑤JAS製材品と需要拡大、供給体制づくり、⑥木の良さを広める人材養成に取り組み」などを内容とする大会宣言案を提案し、満場一致で採択された。



林副会長閉会挨拶



総会議事の様子

**【記念講演会】**

岡野健東京大学名誉教授（木材アドバイザ）講習講師・資格認定委員会委員長、林政記者クラブ2018年グリーン賞受賞）から「木材利用余話」と題して概略以下のような骨子で御講演をいただいた。木材アドバイザの生みの親でもあり、木づかいなんでも相談室、合板博物館館長の御経験の中から、基本的なことを判り易く、以外なエピソードを興味深く、説明され、聴衆の興味を誘った。木材アドバイザ講習会の一講義分にも相当する講演の骨子は、以下の通り。

①日本の緑を守りたい（国産材で家？とんでもない！）

光合成、原生林（極盛相の森林）の物質生産量、木の見直される利点

②「木は強い」を子供たちが実感（単板と合板）

繊維方向と接線方向のせん断強度のちがひ、繊維方向を直交させる合板の組み合わせによる強度

③樹種が違うと！（馬の糜爛性出血、原因と予防は？ ・耐朽性）

Simarouba amara（ニガキ科）チップが馬の糜爛性出血の原因、熱水に漬けて味で見分

ヒノキ科は耐久性大きいもの多く、マツ科は耐久性小さいものが多い。

ヒノキ科とマツ科の見分けは、樹脂道の有無で

④変色のクレーム（歯科医のクッションフロア・マンション1Fのフロア）

クッションフロア合板目地から変色、使用樹種が原因での変色、

・1階フロア変色、基礎未乾燥故のアル

カリ成分による変色  
 ・だれが費用負担、弱い立場のところへ行きがちだが、皆で  
 ⑤南極観測船宗谷の甲板（デッキブラシの役目は？）  
 ・海水によるデッキのブラッシングにより紫外線による劣化等が軽減



講演の様子

### 足 ■都市木造化推進協議会発

令和元年5月13日（月）、東京都永田町ビル（東京都千代田区永田町）において、「森林（もり）を活かす都市（まち）の木造化推進協議会」の設立総会が開催された。その目的は、「持続可能な環境や社会を実現することを念頭に、森林・林業・木材関係団体、建築関係団体、本会の趣旨に賛同する企業、地方公共団体等から広く賛同者が集い、都市の木造・木質化の推進を通じて日本の森林・林業を再生し、地球温暖化防止、地方創生、国土強靱化等に貢献していくこと。」とされている。

参加の意思を表明している団体・企業は、2019年5月10日現在、33団体・企業。設立総会では、「設立趣意書」、「協

議会の規約」の採決並びに役員を選任が行われた。協議会の会長には、前田直登氏（一社）日本林業協会会長、副会長には、木村一義氏（一社）日本木造耐火建築協会会長、理事には、鈴木和雄氏（全木連会長）、村松二郎氏（全森連代表理事会会長）、市川晃氏（一社）日本木造住宅産業協会会長、大野年司氏（一社）JBN・全国工務店協会会長、島田泰助氏（一社）事務局長兼任・全木連副会長）等がそれぞれ選任された。

総会には、牧元幸司林野庁長官及び石田優国交省住宅局長をはじめとする関係省庁の担当者が出席し、御来賓として自民党から、「森林を活かす都市の木造化推進協議会」会長吉野正芳先生（衆議院・福島5区）、同幹事長金子恭之先生（衆議院・熊本4区）、同事務局長小島孝文先生（衆議院・中国）等多くの関係者が出席した。当該協議会は、自民党の「森林を活かす都市の木造化推進協議会」と連携して活動していくとのこと。協議会と協議連の連携によって、都市の木造・木質化が一層推進され、国産材等の需要拡大が大いに進むことを期待したい。



協議会設立総会の様子

### ■全木連第80回総会開催



来賓の議員連盟会長等

全国木材組合連合会（鈴木和雄会長）は、令和元年5月14日、ホテルメルパルク東京（東京都港区）で第80回通常総会を開催した。総会には、全国から集まった会員の他、4月18日に設立された森林を活かす都市の木造化推進議員連盟会長の吉野正芳衆議院議員、同幹事長金子恭之衆議院議員及び同事務局長小島敏文衆議院議員並びに本郷浩二林野庁次長等が来賓として出席した。懇親会には、牧元幸司林野庁長官も駆けつけた。総会の中で、鈴木会長は、「都市木造化推進協議会と都市木造化推進協議会が連携して国産材利用を拡大し、日本の森林再生を図って行きたい、譲与税については、住民ニーズ・意向に沿った使い道を市町村に工夫してもらいたい、林業・木材産業が持続可能となる木材価格の実現」等に触れて開会の挨拶をした。本郷林野庁次長は、「民間建築物の木材利用促進を利用者に働きかけるウッド・チェンジ・ネットワークの立ち上げ、CWF法に基づく合法性確認の徹底、合法木材の流通・利用促進へ積極的に取組んでほしいこと」等に

### ■四市連第九十二回定期総会を開催

も触れて祝辞を述べた。総会では、合法木材の供給は、事業者自らの責任として一層取り組むこと、外国人技能受入れへの対応状況が報告された他、JAS製材品の普及・PRに取り組む等の方針が確認された。

四国地区木材市場連盟（会長・岡田育大（株）ゲンボク）は4月24日、ホテルグランドパレス徳島（徳島市）において第92回定期総会を開いた。

出席者は、約30名で、連盟所属の役員のほか、来賓として四国森林管理局松本寛喜森林整備部長、同吉良崇夫企画官、川上伸一徳島森林管理署長、駒留勇人徳島県新次元プロジェクト推進室長、日刊木材新聞社大阪支社末岡隆文取締役等が参加し、当連盟からは小合専務が出席した。

岡田会長の開会挨拶、四国森林管理局松本部長から林業成長産業化に向けた課題と四国局の取組について、社会情勢、森林資源、原木供給及び木材利用の切り口から判り易い説明があり、四国局の令



四国地区木材市場連盟総会の様子

和元年度生産・販売事業の概要等についても説明があった。その後、議事に移った。

〔議事〕

平成30年度事業報告・同決算報告、令和元年度事業計画・同予算案が提案され承認された。事業計画では、全市連総会、地方展示即売会、全市連功労者表彰などについて説明があった。また、各参加者から、最近の情勢等も発表され、有意義な意見交換の場となった。

日刊木材末岡取締役からは、最新の木材商況等の貴重な情報提供がされた。

全市連小合専務は、全市連31年度事業計画、合法・木質バイオ証明、労働安全確保、木材輸出統計資料、「働き方改革」等について説明した。

■「ウッド・チェンジ・ネットワーク」開催

1. 会合の開催

林野庁は、2019年2月27日及び同4月24日に農林水産省において、ウッド・チェンジ・ネットワークの会合を開いた。

「ウッド・チェンジ・ネットワーク」〔民間建築物等における木材利用促進に向けた懇談会〕は、民間建築物等における木材利用の促進に向け、建設事業者、設計事業者や施主となる企業が一堂に会する懇談会を開催し、木材利用に関する課題の特定や解決方策、木材利用に向けた普及のあり方等について協議、検討を行い、木材が利用しやすい環境づくり、日本全国に木材利用を広げていくプラットフォームづくりに取り組みすることを趣

旨としている。構成員は、セブン・イレブン、東京海上日動火災保険、東京急行電鉄、大林組、シエルター、JM、住友林業、竹中工務店、ナイス、前田建設、三菱地所、マクドナルド、ポラス、日建設計、農林中金、JAPIC、全森連、全木連、大橋良光東京都市大学教授、東京都、高知県、国交省、林野庁などで、事務局は、林野庁木材利用課。

2. 会合での主な意見は、以下のとおり。

○一部店舗で木目調デザイン採用しているが、プリントフィルム。木材は人の優しく、気持ちよくお買い物して頂ける環境作り出せる良い材料○木造の重要な視点はコスト。長持ちし、使いやすい店舗用木質材料開発する必要。○コンビニの店舗では、サイズが規格化されたCLT等部材・建材の共通化を図ることで経済的な店舗建築が可能となり、木材活用してもらいやすく。○新規出店、建て替え等の際、外装材、軸組材として国産材使用する方針。○木材を使うことのみならずさへの対応必要。○防火規制運用自治体により指導異なる。○木造は高コストという認識だったが実際には条件により他と同等かそれ以下とわかった。大規模木造は施工業者限られ工期厳しくなった印象。○材価30〜40年変わらず、技術革新により、高付加価値化期待、山元へ資金還元を。○木材は需要者に届くまでそれなりの時間必要、他資材と異なる特徴を理解しておく必要。○木造整備コスト高くても見合った付加価値有れば良い。木材利用の付加価値が木の良さに留まっている印象、木材活用で家賃どのくらいに設定できるかなどデータ示され

ば投資に対するリターン判断できる。○木造の構造見せるための整備コスト高くなるのではないか、木材を見せない設計もあるのでは。○木材利用に対する漠然とした不安があり、木材を使うメリット、デメリットの統一的な見解示すこと重要。○適切に設計された木造が鉄骨や鉄筋コンクリートに比べ劣らないことを示す必要。様々な分野の方々が集まって木材利用について議論する必要。○木造の耐火建築物のコストは一般的に高く、準耐火では燃えしろ設計で施工した場合、鉄筋と同等程度に抑えられる事例多くあると推測。

3. 今後の議論の進め方

出席会員の意見等を踏まえ、今後の進め方として以下のとおり整理。  
①低層小規模、②中規模ビル③木質化の3WG(ワーキンググループ)を設置し、先行事例分析、木造・木質化の可能性等について検討を進める。

■春の褒章受章

政府は、2019年春の褒章受章者を発令し、業務に励み国民の模範である人に与えられる黄綬褒章を、林雅文伊万里木材市場社長(全市連副会長・九州支部長)が受章した。御受章、誠にめでとうございます。

〔正誤表〕全市連時報令和元年5月号3頁(会長表彰者)の(第一木材(株))は、(大)木材(株)、本誌は、橋本政治の誤りです。お詫びの上、訂正いたします。

雑記帳

毎朝、最寄駅の1つ手前で下車し、事務所まで歩くことにしている。いくつかのコースの内、春日通を通っていると、これまで気づかなかったが、ごく普通の雑居ビルにカラフルな旗が掛

もあつたかしらと思つたが、緑、赤、黄色のシンブルな旗で、見たことの無いものだった。近づいて見ると、「ベナン共和国大使館」の表示。「へーこんなところに大使館があつたのか」という軽い驚き。ベナンは、西アフリカにある国で、南は、大西洋のギニア湾に面し、ナイジェリア、ニジェール等と接している。面積は11万km<sup>2</sup>と北海道と九州を合わせた程度の面積で人口約1千万人。GDPは86億US\$ (2016年)で東京都当初予算の10分の1程度。綿花やカシユナツツなどの農産物を輸出しているもので、日本にも多少、産品が来ているかもしれない。在日ベナン人は74人(2015年)で、タレントのゾマホンが有名。世界には196の国があり、その内155か国の大使館が日本にあるようだ。アメリカ合衆国、中国、ロシア、英国など大国の動向は、常に話題となるが、関係の薄い、小さな国々の事はあまり知られていないけれど、国連の議決等では、一票は一票。林業・木材業界においても、ガリバー的な企業は、生産性、収益性等で優れている。国際競争力強化等の面では、行政対象として最も効率的ではあるが、木材業界には多くの事業者があり、行政の公平性等の観点からは、中小事業者にもバランスの良い施策をお願いしたいものである。